

## ザルビオを利用した可変施肥

ザルビオは水稻や大豆の品種特性、気象情報、人工衛星画像など、様々な情報をAIで解析して、生育予測、病害虫防除支援など最適な栽培管理を提案するシステムです。この中で、人工衛星のリモートセンシング画像には、生育量を表すバイオマスマップと地力に相当するパワーゾーンマップがあり、これを低価格で提供します。

このマップを利用して、地力に応じて基肥量を変える、可変施肥の事例を紹介します。

### ●パワーゾーンマップによる可変施肥

パワーゾーンマップは、かんたんに表すと圃場の『地力』をマップ化したものです。

植生指数を用いて過去15年分の衛星画像をザルビオのAIが解析。例年どのエリアの生育が良く、どのエリアが悪いのかを解析し、それをもとに圃場の地力を推定します。そして可変施肥を行うためのマップも下記手順で作成する事が出来ます。



### 【手順】

1. マップを作成したい圃場を選択します。
2. 「タスクを追加」から「施肥」を選択します。
3. 施肥を行う日にちを選択します。
4. 使用する肥料を選択します。  
選択肢にない商品を施用する際は、カスタム商品を選択します。使用する商品とその成分を登録すれば、次回以降にも選択が可能です。
5. 使用量を設定します。  
・使用量の分布[手動]…各ゾーンの10aあたりの使用量を任意の値で設定します。

- ・使用量の分布[自動]…基準となる使用量(kg/10a)を入力すると、各ゾーンの使用量を自動計算します。

6. 「マップを編集」からマップを確認・カスタマイズします。

7. タスクを保存します。



8. 作成したマップをダウンロードします

9. ダウンロードしたファイルを農機に連携

ダウンロードしたZIPファイルを解凍し「TASKDATA」という名称のファイルをUSBメモリに移して、農機に読み込みます。マップを農機に連携して施肥を実行します。



※ 可変施肥機能を持つ農機が必要です。

※ バイオマスマップも同様な手順で施肥マップ作成、農機との連携が可能です。

◎ザルピオに興味を持った方や詳しい情報が知りたい人は、JA 全農にいがた担い手・営農支援課（電話：025-232-1550、メール：zz\_nt\_ninaite@zennoh.or.jp）まで連絡ください。

（担い手・営農支援部 担い手・営農支援課）